

『申義堂』が復元される

申義堂とは

江戸時代の文化年間(1804-1818)に、高砂町北本町に創立された学問所。姫路藩家老河合寸翁(1767-1841)の命により、当時、高砂の大年寄であった岸本吉兵衛が土地・建物を提供。町民による町民のための教育機関だった。

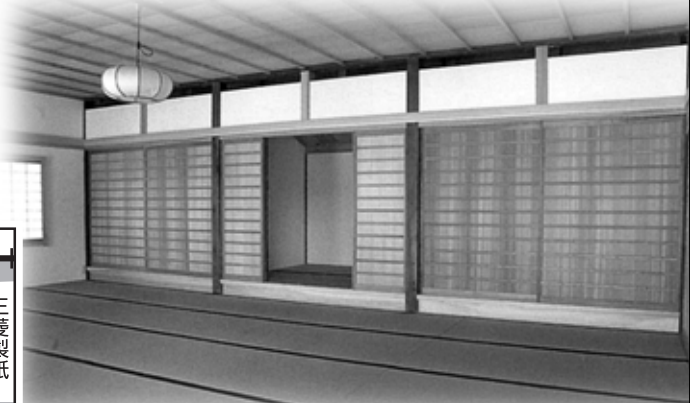
高砂の庶民が学んだ郷学として、教育の原点ともいえる施設。

申義堂の教育

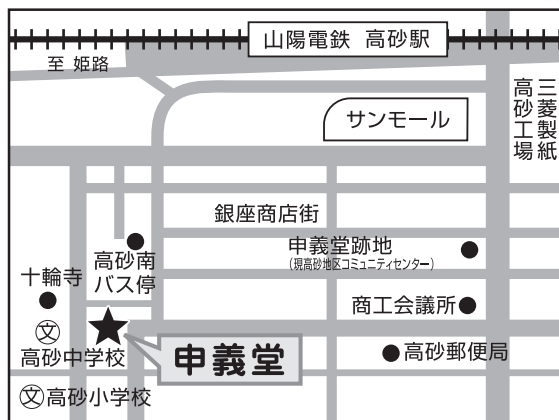
申義堂では、子供たちが、中国の古典などを教材に、まちの大人たちに教わっていた。毎日、早朝から正午まで、元旦五節句と毎月5・15・25日の休み以外は、授業がおこなわれていた。



▲復元された申義堂



▲座敷



- 公開日 土曜日・日曜日・祝日
(ただし、12月29日～1月3日は除く)
- 公開時間 午前10時から午後4時まで
- 入館料 無料



▲河合寸翁筆 申義堂額

たかごのまちを
たかごのまちで



桃李もの言わざれども下自ら蹊を成す

桃やすももは何も言わないが、花や実を慕って人が多く集まるので、その下には自然に道ができる。徳望のある人のもとへは人が自然に集まることのたとえ。

『史記』李將軍伝賛から

もうすぐ、忘れがちな“節分”です。歳分だけ食べる節分の豆。一つ一つは小さいけれども、数十粒になるとさすがにボリュームがありますね。10歳の頃に「全然足りない」と感じた事を思い出します。その頃からどれだけ自分が成長しているのか分かりませんが、豆を年齢分数えながら取っていると、本当に多くの方々のお世話になって今があるのだと感じます。今年という一粒をまた、しっかり噛みしめて味わいたいと改めて思います。

(編集者 菱田好美)